



# 共同通信



2008年9月6日 145(355号)

日本基督教団 西宮公会教会月報 〒662-0834 西宮市南昭和町10-22  
0798-67-4691 FAX 0798-63-4044、Email:koudou@gamma.ocn.ne.jp  
<http://www.koudou.jp/> 振替01170-3-4901  
ホームページアドレスが新しくなりました。

時代にふり回されるのではない 自分の人生を語ってほしい、  
あの時 心を躍らせて生きた 自分の人生を語ってほしい、  
後悔に 身をふるわせたこともある 自分の人生を語ってほしい、  
笑い 泣き 歯ざしりをした 自分の人生を語ってほしい、  
今日 こんな決意をしたという 自分の人生を語ってほしい

## To tell the story 45 『こころ伝えることの大切さ』

まだ3歳児だったわが子には、園庭に聳え立つ自分の背丈の2～3倍もある砂山が強烈に印象的だったらしい。「みう、どっちのようちえんがいい?」、「みーちゃんね、おやまのようちえんがいいの!」、共同幼稚園との出会いはわが子のその熱い言葉で始まりました。

その後、入園してからはとにかく毎日が驚きで、一体この幼稚園はどうなっているのか? 毎日のように遠足があり、じゃあほんまもんの遠足はどこに行くんや? と何度か妻に聞いたこともありました。しかし通い始めてすぐさま子供が以前にまして元気で活発になり、この上なく毎日を楽しく過ごしているのを見ていて、

ちょっと見に行行ってやろうと企み、ほんの少しづつ週末のお迎えや行事に参加し始めました。そこで見た園の先生方の姿勢と子供たちに対する接しかた、協力されている多くの方々のパワーには、驚きと感動を覚えました。昔自分が通っていた幼稚園や学校で、先生方がこのような接し方であったか? 共同の方々は何が違うのか、何かひとつのパワーで結束されている。非常に興味を持ち出し、はまり始めたのは、わが子が既に年長のねっこ組になった頃です。

園の行事がある際には何かと関わりを持ち、と言うより持ちたくなり、他のお父さんたちにも声をかけ、子供たちはもちろん、自分たちが楽し

むようになりました。母たちは役員経験もあり既に親しかったようですが、父たちも自然と親しくなり、必然として呑む機会が増えだしました。その頃から、父親である私たちの園に対する協力と楽しむ姿勢は卒園時期に向かってさらに大きくなり、みんなの思いやりの心は何かひとつのものになっていたように思います。そしてそれをひとつの形として園長先生に認めていただき、命名いただいたのが“のびーるの会”です。名前をいただいてからは、ますますみんなが積極的に園や教会の行事に参加し、アイデアを持ち寄って新しい試みをしてみたり、楽しみながら活動しています。

話は全く変わり私事になるのですが、私は物流会社の経営を担っており、近く父から継承する予定です。当社は40年の歴史を持ち順調に発展を遂げてきましたが昨期、世間の不況に飲み込まれついに印の決算に陥りました。この不利益が生み出す不祥事、労働問題、法令抵触に関する問題は次から次へと後を絶ちません。しかし最近、前期のマイナスは必然として起ったことに気付き始めました。確かに景気動向に大きな回復の兆しは見えず消費は減り、大手企業各社とも大幅な減益を計上するのが当たり前のようになっていきます。しかし、当社は過去を振り返ってみてど

うだったか。この40年の間に、私の父は少なくとも2度以上の不況を経験しているはずですが、その際も業績を下げることなく乗り切ってきました。それは現状と一体何が違うのか？裸一貫で当社を立ち上げ、トラック1台で商売を始めてから少しづつ社員を増やした父は、その社員1人1人に対して「事故するな、気をつける、頑張ってくれよ、ありがとう！」この言葉を掛けていました。当時は保険すら入ることもできませんでしたので、一回大きな事故があれば確実に倒産に追い込まれる事を父は当然わかっておりました。ですから相当必死だったはずですが、単純ではあるがその言葉は本当に熱く、心から話している言葉であり、従業員の心に強く伝わっていったはずですが。

現在父は67歳、さすがに当時のパワーで同じように社員に思いを伝えることはできません。私自らぐもっと早くにその代わりを打って出していればと今更ながら反省です。私も当社に入り15年になりますが、ここ最近では管理職に対し、しっかり自身のビジョンを持って社員に接するよう指導してきました。しかし、実は私自身が社員に対し自分の気持ちや熱き思いを伝えることを忘れていて、表面的な話し方になっていたのかもしれない。当社の必然はこれに始まっていると確信したのは本当に最近のことです。

2 うだったか。この40年の間に、私の

人が人と共に生活するのも、教育

するのも、協力し合ったり楽しむのも、仕事をするのも、経営するのも、全て共通して言えるのが、その思いを伝えることが大切だということ。公同の方々が結束してすごいパワーを発揮しているのは園長先生、順子先生の強い信念と熱き思いがみんなに伝わっているから、のびーるが結束し充実した活動ができるのもお父さん全員の思いをみんなで理解し共有しているからだと思います。わが子が“おやまのようちえん”に行きたいと行った時も幼いながらに信念めいたものを感じました。

私自身、これから大変な局面を迎えることになりましたが、このころを伝えることの大切さを胸に、熱く邁進していく決意です。最後になりましたが、7月号で私の原稿が遅れてしまい、高島紀子さん初め多くの方々にご迷惑をお掛けしましたことを心からお詫び申し上げます。そしてありがとうございました。

(堀内 正行)

## 日本基督教団西宮公同教会集会案内

早天祈禱会	毎月1日午前6時30分から	於：西宮公同教会集会室
教会学校	毎週日曜日午前9時から	於：西宮公同教会礼拝堂
聖日礼拝	毎週日曜日午前10時45分から	於：西宮公同教会礼拝堂
聖書研究祈禱会	毎月第1・3水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
読書会	毎月第2・4水曜日午後7時から	於：西宮北口西伝道所
ゆっくり聖書を読む会	毎月第2火曜日午前10時から	於：西宮公同教会集会室

これは単に困った人のためということではない。私たち自身の問題として、  
やはりそこには人々と共に笑ったり泣いたり喜んだり苦しんだりしながら  
何かをしていく。そのことが私たち自身を豊かにすることではない。かど密かに  
思っています。話教くさくさになってきましたのでこのんで終わらせていただき  
ます。

(「絶望から希望へ 生命に寄り添って」中村哲)

「心をつくし、精神をつくし、力をつくし、思いをつくして、主なる神を愛せよ」そして「自分を愛するように、あなたの隣り人を愛せよ」の“愛神”“隣人愛”のすすめは、ルカ福音書の場合は10章25節以下、マルコ福音書の場合は12章28節以下に、少し違ったやりとりとして書かれています。

ルカ福音書の場合の“愛神”“隣人愛”は、律法の中から読み取られた“永遠の生命が受けられる”為の要件を満たすものとして挙げられています。そのもともとの律法の場合、何かの要件を満たすものとしての“愛神”“隣人愛”ではなく、文句なしにそれを求めます。「・・・あなたは心をつくし、精神をつくし、力をつくして、あなたの神、主を愛さなければならぬ」(申命記6章5節)。「あなたはあだを返してはならない。あなたの民の人々に恨みを抱いてはならない。あなた自身のようにあなたの隣人を愛さなければならぬ。わたしは主である」(レビ記19章18節)。ルカ福音書は、“愛神”“隣人愛”を、“永

遠の生命を受ける”要件と理解して、“隣人愛”の“隣人とは誰か”という、少なからずとんちんかんな問いを發することになります。改めて“隣人とは誰か”を問うまでもなく律法は隣人と隣人愛をことこまかに記述しています。「あなたの隣人をしいたげてはならない。また、かすめてはならない。日雇い人の賃金を明くる朝まで、あなたのもとにとどめてはならない・・・」「さばきをするとき、不正を行なってはならない。貧しいものを片よってかばい、力ある者を曲げて助けてはならない。ただ正義をもって隣人をさばかなければならない。民のうちを巡り、人の悪口を言いふらしてはならない。あなたの隣人の血にかかわる偽証をしてはならない。わたしは主である」(レビ記19章13節、15、16節)。“愛神”“隣人愛”も、要件を満たす何かではなく、常に絶対だったのです。そして、“隣人とは誰か”ではなく、生活を共にする人たちが常にそこにいて、その人たちが隣人だったのですから、ルカ福音書10章29節以下

で描かれるような“良い人”である必要もありませんでした。

マルコ福音書は、“愛神”“隣人愛”を語った後「これより大事ないましめは、ほかにない」(23章31節)「すべての燔祭や犠牲よりも、はるかに大事なことです」(同、33節)と、あれこれ煩雑を極めるその他のいましめのすべてを切って捨てます。

マルコ福音書のイエスも、ルカ福音書と同じ「永遠の生命を受けるには」という問いの前に立つことがあります。「ひとりの人が走り寄り、みまえにひざまずいて尋ねた、『よき師よ、永遠の生命を受けるために、何をしたらよいでしょうか』」(マルコ福音書10章17節)。それに対するイエスの答えが「殺すな、姦淫するな、盗むな、偽証を立てるな、欺き取るな。父と母とを敬え」(同、19節)そして「あなたに足りないことが一つある。帰って、持っているものをみな売り払って、貧しい人々に施しなさい。そうすれば、天に宝を持つようになる。そして、わたしに従ってきなさい」(同、21節、22節)。“殺すな、姦淫するな”のあたりは、よっぼどでない限り、なんとか果たせそうですが、“持っているものをみな売り払って、貧しい人々に施し”“わたしに従ってきなさい”のあたりになると、全く別のことが問われることになって、この人ならずとも尻ごみしてしまいます。マルコ10章23節

以下では、これらのことはもっともっと明解にイエスの口から語られることになります。「財産のあるものが神の国に入るのは、なんとむずかしいことであろう」「富んでいる者が神の国にはいるよりは、らくだが針の穴を通る方が、もっとやさしい」など。ルカ福音10章29節以下で示されるような“隣り人”はなんとか振舞えなくはありません。その場合の“隣人愛”と「持っているものをみな売り払って、貧しい人に施す」ことの実践を迫るのは、意味が違ってきます。“天に宝を持ち”“きたるべき世では永遠の生命を受ける”時、その人はこの世界では言ってみれば“破滅”を選ぶことになります。マルコ福音書10章26節で弟子たちが「それでは、だれが救われることができるのだろう」と互に言ったりするのも、目の前にある破滅が見えてしまうからです。破滅であるにもかかわらず、そのことで“天に宝を持つ”“きたるべき世では永遠の生命を受ける”と言ってゆずらないのがイエスです。

これって、“あれも、これも”ではなく、人には“あれか、これか”を選ばなければならない時のあることを示唆しているようにも思えます。





## 2008年9月 あんなこと こんなこと...

- ・ 9月 1日(月) 早天祈祷会
- ・ 9月 2日(火) 2学期始園式
- ・ 9月 3日(水)、17日(水) 聖書研究祈祷会
- ・ 9月 6日(土) 公同文庫
- ・ 9月 9日(火) “第23回ゆっくりと聖書を読んでみませんか”  
「ピーターラビットのおはなし」に見る家族の姿
- ・ 9月 9日(火) 子育て支援コンサート “あつまれみんなのひろば”
- ・ 9月 10日(水)、24日(水) 読書会
- ・ 9月 17日(水) 新入園説明会
- ・ 9月 20日(土) 絵本勉強会、西宮公会堂カレンダー打ち合わせ

### にしきた商店街...

- ・ 9月 7日(日) 津門川川掃除
- ・ 9月 7日(日) ひらき・まつり
- ・ 9月 10日(水) 商店街役員会
- ・ 9月 12日(金) 西北活性化協議会
- ・ 9月 13日(土) 第12回津門川塾
- ・ 9月 16日(火) にしきた街舞台実行委員会
- ・ 9月 28日(土) デニム de コンサート 場所：駅前公園
- ・ 9月 29日(日) デニム de コンサート 場所：西宮公会堂礼拝堂

### アートガレージ

- ・ 火～金曜日：10時～17時 土曜日：15時～17時 開室日
- ・ 9月 2日(火)、16日(火) 丹波野菜市
- ・ 9月 3日(水) “年長組宿泊保育・淡路島” 写真展

### 関西神学塾

- ・ 9月 12日(金) 午後7時～9時 ヨブ記釈義(11) 講師：勝村弘也
- ・ 9月 19日(金) 午後7時～9時 使徒行伝を読んでみよう(35) 講師：桑原重夫
- ・ 9月 26日(金) 午後7時～9時 マルコ福音書註解(中)(51) 講師：田川建三
- ・ 10月 3日(金) 午後7時～9時 ヨブ記釈義(12) 講師：勝村弘也
- ・ 10月 10日(金) 午後7時～9時 使徒行伝を読んでみよう(36) 講師：桑原重夫
- ・ 10月 24日(金) 午後7時～9時 マルコ福音書註解(中)(52) 講師：田川建三





## 教会学校から

### 《8月の活動報告》

教会学校は8月24日（日）まで夏休み  
でした。

8月31日（日）

お土産パーティ

### 《9月の活動予定》

9月7日（日）

キャンプビデオ上映会 &  
そーめんチャンプルを食べよう

小学5年生以上の子どもたちが、ひらき・  
まつりに射的の出店で参加します

9月14日（日）

けりゴマで遊ぶ

9月21日（日）

敬老の日

南昭和町自治会・甲風園3丁目シルバー  
会の方たちに遊んでもらう

9月28日（日）

投網で川魚捕獲大作戦！

## グアテマラ便り

日本は盛夏を迎えて、猛暑の毎日のこと・・・(9月になっても日本はきっと暑いのでしょうか。)  
グアテマラ。北緯15度の位置にありますが、私の住むアンティグアは高度1500メートルのおかげで、セーターが必要になることもある気候です。ところが、最も有名な遺跡、ティカルがある地域は海拔1000メートルくらいで、かなり暑い。日本の暑さを思い起こさせます。。

考古学の授業でこのあたりの遺跡を5日かけて巡りました。ティカルのみならず、多くの王国があったので遺跡もたくさんあるのです。

マヤの遺跡でまず、驚きなのはあまりにも正確な方角。。。ひとつのピラミッドの東側に3つの小さなピラミッド、その中央のピラミッドの真ん中から日が昇る日が、春分・秋分。そして、残りのそれぞれ外側の端っこから日が昇る、それが冬至であり、夏至なのです。紀元前からの文明が、ここまで発達していたことに本当に驚かされます。

さて、そのマヤ・カレンダー。2012年12月21日で途切れているということで、世界が終わる！だなんて、何とかの大予言のように取り上げられているのです。もしかしてご存知の方もいらっしゃるのでは・・・

そして、マヤ・カレンダーの始まりの日、とされているのが紀元前3114年8月13日です。ここで、ちょっとややこしいので簡単にいいますと、マヤの日にちの数は20進法で、それぞれの桁があるのですが、最終的に20カトウン=1バクトウン(144000日)の13バクトウンに当たる日、(グレゴリオ暦で5125年)で大きな1サイクルが終わるとされています。それが2012年。大きなサイクルが終わり、また新しいサイクルの始まり、ということだそうです。(数字に弱い私にはこれ以上にうまい説明の仕方ができず・・・ごめんなさい)

さて、その20が意味するところとは、人の持つ指の数。そして、13とは腕脚の関節、3つずつですよ。3×4、そこに首の関節を加えて13といわれています。人の暮らし、人間と密接に関わった文明なのです。授業でも遺跡での話を聞いても、「ほおっうう」と感心しきりです。古代から、人は自然とともに、きちんと向き合って成長してきたのに、今、少し向き合えていないのかもしれない。

自然災害のニュースを聞くと、ちゃんと向き合ってよ！って自然が警告してきているような気がしてしまいます。

# 大切な贈り物・津門川 73

“ 津門川に感謝しながら・・・ ”

津門川を覗く度にいろんな生物に出会えます。幼稚園の子どもたちが散歩に出かける時、必ず津門川のそばを歩きます。ぽっぽさんたちが初めて園外へでかけたのは4月の半ば過ぎ。年長さんが描いたこいのぼりが津門川に泳ぐのを見に～でした。あの頃はいつも川から子どもたちのこいのぼりがみんなを見守ってくれているようでした。その日以来ぽっぽぐみの子どもたちも津門川を覗き込むのが大好きになりました。鯉やナマズ、カモ、サギ、カメ、最近ではすっぽんなんていうのも仲間入りしたみたいで時々水中から顔だけ覗かせては街の様子を窺っているようです。

長い夏休みが終わって、先日夏期保育が行われました。久しぶりに顔を合わせた子どもたち、みんなで津門川沿いを久しぶりに歩きました。するとまず目に飛び込んできたのが・・・たくさんのトンボたちです。川の上をとっても気持ちよさそうにスーっと、左に行ったかと思えば、クルリと方向を変えてスーっと右へ、そしてまた左へ～。みんなの前を行ったり来たりです。あまり数が多いトンボたちに手を空に上げて

そうです。誰かが大人の真似をして手を上げると、みんな上げだしてそのまましばらくそうしていました。なかなか止まらないから、そのうちだんだん手を下ろしていくのですが、そんなみんなの手を上げる様子を川の向こうから見ていた通りがかりのおばさんはニコニコ笑ってみてくれました。

今、トンボだけじゃなく素敵なのが虫たちの声です。兵庫栄養専門学校の前でカメを見ていたら聴こえてきました。川の流れる涼しげな音と一緒に虫の鳴く声。いつもはワイワイ言いながら覗き込む川ですが、少し喋るのをやめて耳を澄ませてみると、リーンリーン 「みずのおとがきこえる～」としか最初はわからなかった子どもたちもしばらく澄ませていると「あ！なんかきこえてきた～」ぱっと顔が輝いた瞬間の表情はなんとも言えません。みんなは姿の見えない声の主を見つけようと更に川を覗き込んだり～。これからの季節はそんな風にも楽しめます。何気なく歩いている津門川、少し足を止めて川の中を覗いてみる、そして耳も澄ませてみてください。川の流れる音はもちろん、

素敵な音色が聴こえてくるでしょう

この夏に教師みんなで研修に出かけました。素敵な出会いが与えられてとても豊かな時間を過ごすことができました。その出会いの中である方がおっしゃっていました。「人づくり = 街づくり」だと。その言葉を聞いて、うんうんと、すごく頷いている自分がいました。私は川のそばにいる子どもたちに声をかけてくださる街の方がいらっしゃることがとても嬉しくて、なんて素敵なことだろうって思います。これからも川を通していろんな世代の人と人が出会っていくことを願っています。そんな風景があるのが私たちの津門川

です。これからもそんな津門川を大切に、川を通して繋がる人たちを大切に、そして子どもたちとの川の時間を大切にしていきたいと思っています。

津門川に感謝しながら・・・。

(石堂 寛子)

### 掃除のご案内

毎月第1日曜（雨天の場合は翌週の日曜日）に津門川の川掃除を行なっています。

参加する方は午後12時過ぎに幼稚園園庭に集まり、長靴をはいて川の中に入って掃除をするグループと、川沿いの道のゴミ拾いをするグループに分かれて掃除を始めます。幼稚園前から南に下っていったあたりからスタートし、171号線にぶつかるまでが範囲です。掃除が終わったら幼稚園に戻り、簡単な昼食をみんなで食べて、川掃除スタンプカードのハンコを1個押して終了です。スタンプカードは5つポイントがたまると、にしきた商店街で使える金券1000円と交換します。

次回の川掃除は10月5日です。

## まいのなんでも案内

8月の末はやたらと涼しく、すっかり秋らしくなったかと思ったのに、9月入ってからは暑いので、もう何を着たらいいのか分からなくなってきました。寝るとき暑いからって窓開けてたら喉が痛くて寒くて目が覚めるし。全く最近の気候はどうなってしまうんでしょうか・・・。

さてそんな今日この頃、私、新しくアルバイトを始めました。本屋で。それも児童書専門店。お客さんが来ないときは自由に本を読んでいいので、正に楽園、パラダイスです。広さも、ちょうど幼稚園の文庫のへやぐらいなので、どうにも落ち着いてしまいます。岩波少年文庫ぐらいは身近にあり続けていますが、絵本はさすがに平素、触れる機会がないので、本当に懐かしいです。ああこんな本あったなあ、ていうものや、このシリーズこんな新刊出てるんだ！ていうものやら。勿論全く知らなかった本を知ることもあります。ちなみに店番としては、プレゼント包装が非常に苦手な店員です。お客さんがレジにいらっしゃる度に、頼むから自宅用であってくれ、て願ってます。クリスマス前が恐ろしい・・・。(プレゼントが増えるらしい)

で、そんな場所にいると、ついつい

14 ほしくなってしまうのです、本。給料

からひく、ていう買い方ができるので(つまりはその場で財布のお金が減らない) ついっっかり手が出てしまいます。最近も、非常に懐かしい2冊にめぐり合ってしまったので、一気に買ってしまいました。その名も『よい子への道』『よい子への道・2』。その昔(もう15年以上前になるのか・・・嫌だなあ)『おおきなポケット』という雑誌で1月見開き1ページ連載していた、おかべりかさん(画家)の、脱力シュールイラストコラムです。「よい子への道」という名前の通り、「(場所だったりシチュエーションだったり)ではいけないこと」を、イラスト付きでいくつか例をあげて解説しているのですが、これが面白い。ツボにハマると、横っ腹よじれて涙が出てくるくらいに面白い。やっぱりイラストを描かれる方なので、ここで文字だけ引用してきても魅力は半減なのですが・・・。例えば。「お客さまがきたときにしてはいけないこと」「1. みんなでおいをかぐ 2. おばあさんにばけてお茶をもっていく 3. 手品をする 4. こわい話をきかせる」・・・と、まあこんな感じで、子どもがやってはいけないこと(やったら楽しそうだけど)をつらつらとリストアップしてあるわけです。もうね、絵が秀逸です。破天荒な「してはいけないこ

と」を真面目くさって行う子どもたちと、それに辟易する大人たち。宇宙人やおばけに困らせられる子どもたち。読んでた頃は、「してはいけない」って言われる方だったのに、今読むと完璧に言う立場なのが、非常に新鮮でもあり少し寂しくもあります。まあいつまでも子どもでいたい、なんて気はさらさらないので良いのですが。そして「よい子への道」の次に連載されたのが、「これが真相だ！」。「あなたがねむってからお家のひとたちがすること」とか「宇宙人のクリスマス」とか、よくまあこんな発想力があるなあと感心するようなシチュエーションを次々と出してくれます。中でも私のお気に入り「あなたが学校にいつているあいだ、おへやのぬいぐるみがすること」で、実際にぬいぐるみをそこそこ持ってる私は、小さい頃からその真相を信じています。まあどんな真相かは見てのお楽しみということ。

おかべさんは、他にも挿絵画家として色々描いていらっしゃるんですが、私はこの連載が傑作だと思っています。まず発想が普通じゃない。でもすごく納得できる。そしてイラストの子ども姿がリアル。別に可愛い子どもたちではないのですが(むしろ憎たらしい)でも何だか愛せてしまう、というか。くせになる、というか。魅惑のおかべワールド、私のイチオシは『よい子への道』一冊目のおまけ

まんがげきじょうの1つめ、「ねぼう」です。全くもって寝起きの悪い私には身につまされるといいですか、まあこれが分かる方とはいいお友達になれそうな気がします。というわけで、今回はちょっとマニアックな本の紹介でした。

(高橋 舞)

## つとがわ 編集後記

この国では、死刑（制度）に賛成の人が80%を超えるのだそうです。被害者（家族）の悲しみや憤りは、それでしか果たし得ないというのがその理由です。そうなのでしょうが、どんな事の場合でも、あれこれ考慮してみるとということが20%に満たないというのは賢明であるとは言えません。たとえば、犯罪ということで刑が確定したものの、冤罪の主張はいっぱいあるし、事実冤罪が立証される場合も少なくありません。犯罪の多くは、その時代の社会を映し出さずにはおかないこと、たとえば今の時代を象徴する“ケイタイ”が多く犯罪に絡んだりしている事実などは、否定しない方がいいのです。どんな場合のどんな犯罪も、その人だけを問いただない何かか幾重にも重なった結果行なっているのが犯罪なのです。死刑という手段を止めてしまった国も多くありますが、そこから全く学ぶべきものは何もないと言い切れません。80%を超える人たちが、被害者（家族）の悲しみや憤りはそれでしか果たしえないことを理由に、死刑（制度）に賛成してしまうのは、不自然かもしれないのです。

「月刊むすぶ 2008年8月号」は、死刑制度が特集です。政治家の亀井静香や佐藤恵などの見解、“犯罪者”である林真須美本人の見解、短い見解を牧師・宗教家として書かせてもらうことになりました。関心のある方は西宮公同教会事務所に問い合わせてください。

(K)

料理が苦手な私・・・先日ゴーヤチャンプルーの作り方を教えていただき、早速実践！！たまごを炒めすぎてしまい固くなってしまったのですが・・・おいしかったです 母や周りの方々にアドバイスを頂きながら～料理の本を読みながら～（読むと意外とおもしろい）料理を頑張ろうと思います。

(N)

夏休み中、能勢のキャンプに始まり、沖縄、島根、青森といろいろな場所へでかけました。その場その場でおいしいものをいただいたり、そこでしかできない経験をしたりしながら過ごしました。そして、行く先々でたくさんの人に出会い、温かさに触れて帰ってきました。

初めて訪れた県もあったのですが、いつか47都道府県を制覇してみたいなあ・・・思っています

(Y)

この夏、教師みんなで青森、岩手へ研修に行く機会を与えていただきました。こぐま社の佐藤さんそして三戸の街の方々、カナンの方々、みなさんの暖かい優しさに胸がいっぱいになりました。人と出会うって素敵だなあ、と心から感じるとともに、人をもてなす心を教えていただいたように思いました。

これからも人と出会う事を楽しんでいきたい、そんな夏を過ごすことができた今年の夏に感謝しています。

(I)

前半は暑い暑いと大騒ぎした夏休みが終わりました。いろいろある中に欠かせないのが孫を時々預かるのと祖父2人の施設の訪問。で、一挙両得とばかりにそれを同時にするように日程調整。幼子の存在は高齢の方々の生活の場ではなかなかの効果を持つ。何しろ一瞬でその色が変わる。また孫も親善大使を心得ていて、笑顔と、握手と、時には食べさせてあげる働きも。人と人をつなぐ、これ「中間管理職」の重要な仕事ということで、わたしはひたすらそういう調整役をしているのです。

又、この夏、昨夏に続いて「特別支援教育」なるものの講座に出席し、一区切りつけました。1969年保育所に勤務してから出会ってきた子どもたち、中でもいっばいにわたしに考えることを要求し続けてきた子どもたちと、その子ども一人ひとりのことを振り返り、その時間に感謝し、またいろいろ頑張らないと思うここ1年余りの学びの機会でした。

(J)